（2）Ａ領域「数と計算」における学習結果

＜表－4＞より、理解の不十分な児童への学習効果や概ね理解の児童が十分達成へ移行している様子が見える。この傾向はどの学年にも見える。このことから、少なくとも「数と計算」領域において効果を現していると考えている。

○課題

(1)「数と計算」で得た研究成果を他の領域にも生かし深化を図る。

（2）具体的な子どもの姿で目標や評価規準を表すとともに、評価の客観性、妥当性、信頼性を高めていく。

(3) 自己評価に工夫を加えていく。情緒的なレベルから分析的なレベル、自分の学習をモニターできるような評価となるよう記述式の評価を工夫していく。

(4)「心の教育（特に道徳教育と児童指導)」の充実を図る。

（ⅳ）成果の普及方策

日　時：平成１４年１１月１５日

場　所：栃木市皆川地区公民館

テーマ：学力向上フロンティアスクール研究推進について

対　象：下都賀地区小・中学校教務主任

（別紙様式）

都道府県番号	9
都道府県名	栃　木　県

（①□　②☑　③□）

※該当する観点にチェックをすること

Ⅰ．学校名及び規模

大田原市立若草中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	3	4				1	１１		
児童数	99	103	133				5	340	２２	

Ⅱ．実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主題（テーマ）

「主体的に学ぶ生徒の育成を目指して」

－一人一人の学びの心を大切にした指導法や指導体制の工夫・改善－

・テーマ設定の趣旨

(1) 生徒自らが学び続ける意欲と態度は、社会の変化に主体的に対応しながら心豊かにたくましく「生きる力」の中心的な要素であり、この「生きる力」の育成こそが急速に変化する社会の要請であると共に学校教育の大きな目標でもある。

(2) 学校教育の大部分を占める学習活動や家庭生活の中で、生徒自らが主体的に学ぶ学習様式（学び方）の形成を図ることは大切な課題であり、その活動が意欲的に継続されれば、獲得される学力は、生きてはたらく「確かな学力」となるであ

ろう。まさに「主体的に学ぶ意欲・態度」こそが、生涯学習社会で学び続けるための重要な資質になると考え本主題を設定した。

(3) 主体的に学ぶ学習様式の確立、すなわち「学び方を学ぶ」の体得には、まず、適切な家庭生活習慣と基礎的基本的な学力の定着を基盤として、探求心旺盛な課題解決能力の育成を図り、学力向上への意欲の継続的な増幅拡大が重要である。

生徒の視点では「どうなっているのか。知りたい。伝えたい。できるようになりたい。」という内面的動機のもとに、個に応じた自分なりの手法で課題解決をスパイラル的に実践していくような生徒を育成したいと考える。

(4) これまでの画一的な指導が見直されてきているが、価値観の多様化、少子化、さらには教員定数・生徒数・教室の数など学校教育に関わる諸条件が変化し、生徒の個に応じたきめ細かい指導が強く求められるようになってきた。

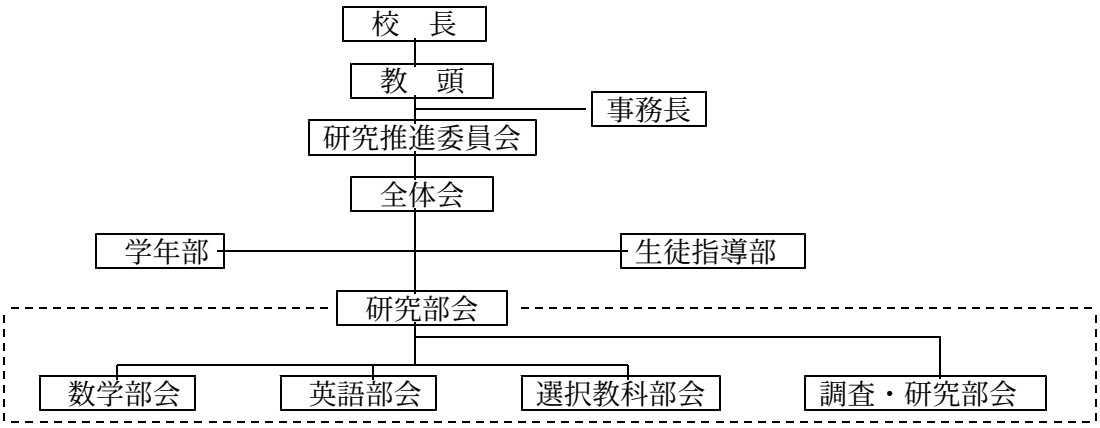
本校においても一昨年前より、個に応じた指導法の工夫を試みてきたが、生徒の学習意欲の低下等の実態から、上記のサブテーマを掲げ、これまで以上に生徒一人ひとりの学習意欲を高める指導法を工夫し、個の習熟度に適応した指導と評価の工夫改善を通して、主体的に学ぶ生徒の育成を目指し研究推進することとした。研究領域は習熟度に差が生じやすい英語科を数学科に加え、２教科を中心に研究を進めることにした。次年度は選択教科でも実践したい。

(5) 本校は、大田原小学校１校のみの卒業生が継続して学ぶ特色を有している。小学校での研究実践「主体的な学びを求めて」の取り組みを継続発展させることは、「主体的に学ぶ」の深化定着が図られるばかりでなく、生涯学習の基礎を培う視点からも有意義である。

Ⅲ. 実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

本研究を、特定の教科に偏ったものにせず、学校全体で学力向上に向け推進していくため、全職員による研究体制を次のように整え、各教科部会の外に選択教科部会や調査・研究部会を設置した。



（ⅱ）実践研究の内容

(1) 教科（数学・英語）部会

・ 生徒の実態の把握

・ 効果的な個に応じた指導法の工夫
・ 少人数指導における意欲を高めるグルーピングの工夫
・ 教材教具の開発
・ 評価の工夫改善

(2) 選択教科部会
・ 適正なガイダンスについての検討
・ 意欲を高める学習内容（課題・教具教材・年間計画）の作成
・ 評価の工夫改善

(3) 調査研究部会
・ 学力向上への意識調査

(4) 学級における指導
・ 学習への心構えの指導
・ 家庭生活・学校生活の充実をめざす指導
・ 基礎・基本の定着を図る指導
・ 朝の読書を推進する指導
・ 自己実現をめざした進路指導

（iii）成果と課題

○ 成 果

・ 少人数指導を行ってきて、一人一人の生徒に目が行き届くようになり、指導がしやすくなった。生徒のアンケートを見ても、６０％の生徒が少人数の授業を「良かった」と答えている。その理由として「質問しやすい」「人数が少ないので集中して学習ができる」等、反応はとても良い。
・ クラス編成は十分説明を行った上で生徒の希望とし、適宜アドバイスをした。教師側が心配するより、生徒達は、自分に合ったところで学習したいと考えているようである。
・ 多様な内容の選択教科を開設したため６３％の生徒が授業を楽しいと感じ、６７％の生徒が意欲を持って取り組んでいると答えている。
・ 保護者へのアンケートでは、少人数指導に対して「一人一人にあった学習が実現できる」「学習の質を高められる」「能率的に学習できる」「一人一人に時間がかけられる」「基礎・基本を徹底できる」などの理由でほとんどの保護者が肯定的に考えている。

○ 課 題

・ 単元や学習内容又は学年によって編成の仕方を変えて指導を行ってきた。今後も検討を重ねて、単元や学習内容、生徒の実態に合わせた指導を継続したい。
・ 習熟度による編成のクラスでは、コースの特徴の出し方が難しかった。基礎・基本はしっかり押さえた上で、それぞれのコースの生徒の学力を伸ばすような指導を研究していきたい。
・ 次年度はこの研究を評価にもつなげたい。

（iv）成果の普及方策

○那須地区小・中学校教務主任研修会

期 日・場 所　平成 14 年 12 月９日　那須地区広域研修センター

テーマ･内容　「学力向上フロンティア校としての実践」
参 加 対 象　地区小・中学校教務主任
〇那須地区学力向上連絡協議会
期 日・場 所　平成 14 年 12 月 16 日　栃木県庁那須庁舎
テーマ･内容　「学力向上フロンティア校としての実践と今後の課題」
参 加 対 象　那須地区フロンティアスクール担当教員、那須地区指導主事
〇大田原市小・中学校学習指導主任研修会
期 日・場 所　平成 15 年２月 20 日　大田原地域職業訓練センター
テーマ･内容　「各学校の取り組み及び推進状況について」
参 加 対 象　大田原市内小・中学校学習指導主任

（別紙様式）

都道府県番号	9
都道府県名	栃　木　県

（①☑　②☑　③□）
※該当する観点にチェックをすること

Ⅰ．学校名及び規模

上河内町立西小学校										
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	2	2	1	9	１６	
児童数	38	37	37	40	44	43	3	242		

Ⅱ．実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主題（テーマ）
一人一人の個性を大切にしながら　自ら学ぶ児童の育成を目指して
・テーマ設定の趣旨
本校では平成１３年度「新教育課程定着プロジェクト」の指定校として「一人一人の個性を大切にしながら自ら学ぶ児童の育成」を研究主題に掲げ、算数科を中心に基礎・基本の定着のための研究に取り組んできた。その結果、ティーム・ティーチングや少人数指導が効果的であることが検証された。
今年度より、学力向上フロンティアスクールとしての指定を受けることになり、児童の学力向上に向けより積極的な研究実践を積み重ねていく機会を得ることとなった。「確かな学力」をつけるために個に応じた指導方法や指導体制の研究開発をねらいとした本事業は、本校の前年度までの研究を継承し深化させていくことでそ